

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	平成24年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成24年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域への参加やご家族の方を多く取り込んだ介護の実践のため、取り組み始めたところです。入居者様とご家族様・職員とで、楽しい雰囲気施設の作り、開かれた施設作りを目指しております。ボランティアの方々にも日常に加わって頂くことで、より刺激のある生活を過ごして頂きたいと考えています。介護度が上がっていても、1日、1日を大切に。と心掛けて、地域に根差した施設運営を行って参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に病院、保育所、運動公園、商業施設、集会所等、人の集まる場所がある。隣接地は広大な畑があり、ホームの敷地内にも菜園がある。食材は地域の個人商店(肉、魚)や野菜直売所、スーパーから調達しており、顔なじみの関係ができています。児童センターの裏庭でパーベキュー、模擬店の参加をすると、こども達が100人位きてくれる。近くのグラウンドで運動会等、障害者施設との交流をしている。職員は、バイタル、体調の変化の気付き、緊急時対応について勉強を重ね、利用者のケアに反映できている、いきが、役割、出来る事の継続の支援のために、ひとり一人を見守るまなざしが温かい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員の見やすい場に掲げ、その理念を実践につなげるよう努めている。	ユニット間のケアに差が出ないように、各フロアの見やすい場所に掲示し、拘束を行わないケアの基本として周知している。利用者本位に考えたケアの振り返りの基本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物外出で日常的に地域の方と交流している。	近隣の保育所と交流があり、雛祭り、敬老会に招待されている。年長児が来てくれることを、楽しみにしている。児童センターの裏庭で桜を観る会を実施し、ボランティアは行事毎に来て頂いている。	管理者の異動から6ヶ月がすぎ、もう一度地域との交流について見直しを考えている。平日のボランティアの受け入れの実現のために地域にアピールして欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや秋祭りの行事で地域の人々と交流し、地域貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者より、運営推進会議の情報を職員に落とし、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催し、毎回、市役所、地域包括支援センターの職員の参加協力があり、意見の交換、検討を行っている。家族の方の参加が多くなるように、季節の行事に合わせて案内をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者より、日頃から市町村担当者と連絡を密に取り、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所に月1度は面会して、課長、係長、担当者との連携が継続できるよう努めている。家族からの質問、申請書類の手続き等、迅速に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。	身体拘束委員会の設置は昨年12月、口頭の指導は随時行われていたが、文書の記載はなかった。ケアをしている職員の表情、気持ちの把握ができるよう、リーダー、管理者は対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人研修の方に、研修場をご提供し、お互いに学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、職員より、ご家族様の不安や疑問点に対して、解消出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様と意見交換し、運営に反映させている。	家族から、看取りの相談が多い現状があるため、医療連携加算を取り訪問看護の導入、提携病院への速やかな入院体制の導入を検討し、終末期の対応を強化していきたい、と考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ユニット会議や全体会議に出席し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員ひとり一人の相談には随時面談をしている。夜勤帯に個々の職員と会話ができるようにしている。ホームを良くしていくための提案は随時検討しており、実践のバックアップをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日頃より、職員の意見を聞き、働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を推奨し、研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員研修にて、職員のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者より、職員に情報を落とし、ご本人様が安心出来るケアが行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者より、ご家族様と話し合いを行い、職員もご家族様の要望を出来るだけ取り入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、職員とも必要としている支援を見極め、他のサービス利用も行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に食事作りや家事手伝いを行い、関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙、新聞、また来訪時にしっかりコミュニケーションを取り、ご家族様との関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や個人レクリエーションで馴染みの場所へなるべく行くよう努めている。	自宅に戻りたい、自宅近くまでドライブしたい等希望に添う様対応している。評判の良い訪問美容を全員が利用している。行き付けていた飲食店に行き好きなものを召し上がって頂く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや入居者様同士が交流しやすい環境を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去される入居者様ご家族様が相談しやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向・希望を把握するよう努め、ケアプランに盛り込んでいる。	日頃の会話の中から個々のニーズを汲み取れるような会話、声かけをしている。生活歴、思い出話は職員周知であり、新たな情報を引き出せるよう発語に頼らず表情、しぐさに気配りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に入居者様の以前の生活をお聞きし、生活環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個人記録に入居者様の状態を細かく記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにご家族様の意向をしっかりと取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	居室担当者からケアの報告を受け、モニタリングを踏まえて定期的に計画をたて、状況の変化に伴って、随時再作成をしている。介護上の課題ばかりに目が行かないように慎重に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議にて職員間の情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに沿って支援出来るよう、ユニット会議等で話し合い、サービスの多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、マッサージ、フラワーアレンジメントにて地域の方との関わりを持ち、少しでも楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、往診や受診が出来るように関係を築いている。	歯科受診は家族に協力して頂いているが、通院が困難になってくる状況があり、今後、訪問歯科の導入を検討中である。入居前からの個人的な通院も継続できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員間で情報を共有し、特変があった場合はすぐにかかりつけ医、看護師へ連絡を取る環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や提携病院との情報交換、相談は行っているが、今後もより一層の関係づくりを行っていく必要がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、主治医、診察医と情報を共有し、ターミナルケアに入った際に話し合いをしっかりと行っている。	職員は看取りケアについて、ミーティングを繰り返し行い、事例検討している。同系列センター内で看取りケアの職員のアンケート、研修を実施した結果前向きに取り組みたいという意見が多かった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等の対応マニュアルを作成しており、職員個々が把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や緊急の事態を想定し、訓練を行っている。	非常災害時の訓練は、昨年の震災の状況、情報を把握して、日頃から取り組める課題を決めている。こまめに備蓄の管理等を行っている。	管理者等の異動により再度管理体制の見直し、防災訓練の方法、地域との連携を再確認する必要性を感じている。安全の確保に向けて更に検討し欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が入居者様の立場に立ち物事を考え、自尊心に配慮した声掛けを行っている。	利用者それぞれの表情に気配りしながら、声かけのタイミングを計っている。羞恥心に対しての配慮、家族、親族の話題等十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、ゆったりとした時間を持ち、入居者様に合わせたペースで会話を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を入居者様に選んで頂き、ご自分で選んだ服を着る楽しみを持って頂けるよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と食事作りや盛りつけ等行っている。また、週に1回入居者様のお好きなメニューをお出しし、楽しみを持って頂いている。	毎月1回、食事とおやつのバイキングを実施し、好きなものを選んで食べる楽しみに繋げている。誕生日には食べたいものを伺い、個別外食の支援をしている。職員と居室で食事をとる場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取が少ない入居者様へは、こまめにお勧めを行う。水分に関しては品を変えて提供したり、入れ物を変える等工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきやマウスウォッシュを使用し、お一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の自尊心を尊重した上で、定期的にトイレ誘導を行い、出来るだけ自立で排泄をして頂けるよう取り組んでいる。	定時の誘導は極力しないようにしている。失禁回数、オムツ、リハパン、パットの使用を減らしていく努力をしている。自然排便を促せる食品、飲料を検討している。朝食後はトイレに座って頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、オリゴ糖入り牛乳やプルーン等、個々に応じた便秘予防の取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意志を尊重し、入居者様の気分がのるような声掛けを行っている。	利用者それぞれの入浴時間や曜日の対応をしている。季節の湯、音楽を流す等、寛げる環境を整えている。1対1の介助時に何う利用者の言葉、気持ちを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせてお昼寝を取り入れているが、夜間ぐっすり休んで頂けるよう、日中のレクリエーション体操も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員、薬について把握をしており、随時、職員間で情報の共有を行える体制づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、食事作りや歌・折り紙等楽しみを持って頂けるように関わりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁ではないが、散歩や近くの商業施設への買い物外出の機会を設けている。今後、外出の機会を増やしていきたいと考えている。	スーパーや野菜産直所の買い物は楽しみになっている。各フロアの利用者と職員全員が出かけるよう努めているが、身体状況に差が出てくる場合は状況に合わせて対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者様には、個人レクリエーション時、財布をお渡しし、ご自分でお支払等金銭のやり取りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望があれば、電話、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を採り入れた装飾品を飾り、春夏秋冬の季節を感じて頂けるよう工夫を行う。また、入居者様のお好きな歌を流し、楽しい雰囲気作りに努めている。	6ヶ月かけて制作したはり絵(ミレーの落ち穂拾い)は見ごたえがある。廊下の一番奥に籐のベンチがあり、少人数、個人がゆっくりできる空間がある。2、3階の窓からは近隣の景色が眺望できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の懸け橋となり、会話やレクリエーション等で入居者様同士の交流が深まる場になるよう取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物やご本人様のお好きな物を使用し、安心した生活を送って頂けるよう支援している。	居室の入り口にフェルトのアップリケ、ボタン、刺繍等で姓名の表示をしている。冷蔵庫の管理が出来る利用者もいる。安心できる家具の置き場所を利用者と一緒に考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様個々の状態に合わせ、できるだけ自立した安心安全な生活を送って頂くよう、環境整備を行っている。		